

課題解決型研究プログラム 自然共生研究プログラム

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- プログラムがよくマネジメントされている。生物多様性国家戦略などの社会ニーズに対応する明確な課題が挙げられ、各プロジェクト間と他プログラムとの連携や、国内外へのバランスのとれた対応も評価できる。
- 基礎的な研究知見と、それらに基づく社会に実装できる成果が挙げられており、環境研究として高く評価できる。
- 広域環境変動に対する生物生態系応答の研究について、新しさやオリジナリティは何であるかが明示できるとよい。
- 人口シナリオと気候変動シナリオをどのように繋げるのかが示されるとよい。

今後への期待など

- 出口のひとつである気候変動適応策への貢献を期待する。
- このプログラムで、生物多様性という概念を社会一般に普及させていくことについて何かできないだろうか。
- 生態系の持続性に関して、目標とすべき持続可能性の像や優先順位をより明確にしていって欲しい。

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 引き続き、社会ニーズへの対応、プログラム間の連携を強化してプログラムを推進して参ります。
- ② 人口シナリオは土地利用や耕作放棄と関連付け、気候変動とともに生物多様性に影響を与えるものとして考えています。
- ③ 気候変動適応策に関しましては、閣議決定された気候変動への適応計画をみすえ、また社会環境システム研究センターとの連携を強めて推進いたします。
- ④ にじゅうまるプロジェクト(<http://bd20.jp/>)への参加など、多様なステークホルダーとの連携を進めており、研究成果を発信して対話を進めて生物多様性の主流化を図って参ります。
- ⑤ 持続可能性の像や優先順位の提示は重要と思います。生物多様性4つの危機への対応を軸に、PJ4 やプログラム全体としてさらに統合化を図り検討して参ります。